

消されることのない灯火 ヨハネ 1:1-5

2025. 12. 21、丘の上、NO. 763
春日部福音自由教会 山田豊

主イエス・キリストのご降誕、クリスマス覚えての礼拝です。

イエスの誕生は、神の御住まいから暗い闇の世界に入ってきてくださった出来事、ともいえると思います。寒い朝など、暖かい布団からなかなか出にくいものです。父なる神のもとで居心地の良かったイエスが、どうしようもない人間の世界に飛び出してきてくれたような、イメージです。それはただ一つの思い、この世を、私たちを愛してくださったからです。

今月 12 月 5 日は満月で、丘の上のイルミネーションのはるか上に輝く月は、趣がありました。しかしその月の輝きは、太陽の光からきています。教会が降誕祭を 12 月 25 日と定めたのは、冬至を過ぎて太陽の出る期間が長くなっていくときなので、イエス・キリストを義の太陽、消えることのない光を放つ太陽になぞらえたためでした。

21 世紀も 4 分の一が過ぎ、万博が開催される華やかな時代ですが、闇のように深い悲しい出来事がこれまで以上に多いと感じる時代でもあるのです。聖書は、光の前に闇があったと言います。ヨハネは、この世は闇であるとも言います。しかし、闇は光に打ち勝たなかった、と私たちに告げるのです。この光はまた、いのちでもあったのです。4 節に「この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった」と書かれているとおりです。

光は、闇の中でこそ輝きます。光が消えるのは、もっと強い光に照らされる時です。イエス・キリストは、闇に打ち勝った真の光として来てくださったのです。消え去ることはありません。イエスの生涯は、悩む人の友となり、病の人の癒す歩みでした。何よりも、最も深い闇である罪から人々を解放し、神の子供、光の子供に変えてくださったのです。

イエスは弟子たちにこう言われました。「あなた方は世界の光です。」と(マタイ 5:14)。この言葉は、現代の教会にも言われています。消えることのない光を掲げることこそ、教会の使命なのです。このことのために、私たちは心をつにし、み言葉を学び、親しい交わりをもってこの地域で仕えていくのです。これが教会のあるべき姿です。

せんだって、6 年前凶弾に倒れた中村哲さんのプロジェクトが紹介される番組が、ありました。彼は言います「みんなの心に小さな灯火をともそうじゃないか。」哲さん自身が、渇ききったアフガンの地に水路を作るという困難な事業を始めたのです。彼は、一隅を照らす光、世の光となって、イエスのみ心を全うした主の証人だったのです。

引用聖句

創世記 1:2 地は茫漠として何もなく、闇が大水の面の上にあり、神の霊がその水の面を動いていた。3 神は仰せられた。「光、あれ。」すると光があった。

ヨハネ 1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

ヨハネ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

マタイ 5:14 あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れることができません。

NHK 総合 新プロジェクト X(2025 年 12 月 6 日放送)より



新プロジェクトX～挑戦者たち～

満月とイルミネーション(2025.12.5@丘の上会堂)

